

職能要件書 職能評価シート

職種	作業療法士
専門部署	リハビリテーション部共通

完全にできている	0	←半角数字の「0」(ゼロ)を入力
まだ不十分	*	←半角の「*」(アスタリスク)を入力

「0」が90%以上あれば、この等級は完全クリアーしている。

部署	
氏名	
現状把握時の等級	
仮格付け時の等級 (給与レベルにあった 当初の等級)	
第1回評価時の等級	
第2回評価時の等級	

【入力手順】

- 今年度の等級を左枠で確認し、該当等級までの項目を全てチェックして下さい。
(該当しない項目はその行を削除してください)
- 「等級」は「独力対応等級」の欄に記載してあります
- 「0」又は「*」を入力 (○×は入力が大変な為、この記号を使用します)
※次年度は「*」の付いている項目のみチェック。但し、等級が上がる方は、上の等級もチェックが必要です。

単位業務 (大まかな区分)	作業名	作業内容 (～して～ができる)	独力 等級 対応	現状レベル 把握の 為の評価	第1回 評価 ()	第2回 評価 ()
物品、機器の管理	リハビリ関連機器の管理	1 物理療法機器の特徴・使用方法を十分に理解し、安全に維持管理ができる	2			
作業療法の評価	身体機能評価(2) (各種検査の実施・記録)	1 テストの内容・症状を正しく理解し、筋緊張テストが実施・記録できる	2			
		2 検査目的・内容を正しく理解し、平衡機能検査が実施・記録できる	2			
		3 検査の内容・症状を正しく理解し、片麻痺機能検査が実施・記録できる	2			
		4 検査の内容・症状を正しく理解し、協調性検査が実施・記録できる	2			
		5 把握機能・動作の到達機能・物品操作機能等の上肢機能検査が的確に実施・記録できる	2			
	精神機能評価 (各種評価の実施・記録)	1 患者の精神状態の評価・記録が適切に行える	2			
		2 患者の特殊症状の情報収集・評価・記録が行える	2			
		3 患者の認知機能を適切に評価・記録できる	2			
		4 患者の社会交流・対人交流能力の評価・記録が適切に行える	2			
		5 患者の障害受容について適切に評価・記録できる	2			
		6 患者の知的能力の評価・記録が適切に行える	2			
	高次脳機能評価 (各種評価の実施・記録)	1 高次脳機能障害の症状の特徴・違いを理解し、失語症状の評価・記録が適切にできる	2			
		2 高次脳機能障害の症状の特徴・違いを理解し、失行症状の評価・記録が適切にできる	2			
		3 高次脳機能障害の症状の特徴・違いを理解し、失認症状の評価・記録が適切にできる	2			
	日常生活動作の評価	1 家屋内・屋外のAPDL(一般的家事動作、管理能力(服薬・金銭等))能力の評価ができる	2			
	全体像の把握、治療計画立案、作成	1 得られた情報からの問題点把握ができる	2			
		2 治療目標(ゴール)の設定ができる	2			
		3 作業療法プログラムの立案、作成ができる	2			
		4 書籍等を参考に、作業活動を分析・評価し、作業活動につなげられる	2			
		5 適切な再評価と訓練の見直しができる	2			
		6 作業療法の治療効果の判断ができる	2			
7 患者の治療状況に応じた治療計画の変更ができる		2				
作業療法訓練	時間調整	1 円滑な訓練を行う為のスケジュール管理ができる	2			
	複雑な機能訓練の実施	1 患者の症状に応じたバランス訓練ができる	2			
		2 患者の症状に応じた協調性訓練ができる	2			
日常生活動作訓練の実施	1 患者の状態に適合する車椅子・歩行支援用具等を選択し、安全で有効な使用方法について助言・提供ができ、必要な点検、修理ができる	2				
生活リハビリテーション	在宅生活指導	1 一般的家事動作、管理動作に対する訓練、手順指導、方法指導が的確にできる	2			
		2 屋外移動動作を含む生活動作獲得のための身体機能訓練が的確にできる	2			
		3 必要に応じて、本人、介助者、家族への適切な(介護方法の検討・改善・)指導ができる	2			
		4 他のサービス機関に対し適切な介助指導ができる	2			
在宅環境整備	1 在宅生活に適した環境調整ができる	2				
	2 在宅生活に適した福祉用具の選定ができる	2				

単位業務 (大まかな区分)	作業名	作業内容 (～して～ができる)	独 等 級 対 応	現状レ ベル把 握の 為の評 価	第1回 評価 ()	第2回 評価 ()
業務協業	他職員との連携、協調(施設内)	1 他職員との連携により患者の生活上の問題点の共通理解が図れる	2			
		2 他職員に対する介助技術の指導, 助言が適切にできる	2			
		3 患者の自立した生活に必要な生活環境の評価を適切に行える	2			
		4 患者に適した居住環境整備をその他専門職と協力しておこなえる	2			
		5 居室で使用する介護機器の選定と活用法が患者の機能に即しているか、検証し、よりよい活用法を指導できる	2			
居宅関連	家屋調査	1 調査の為の連絡調整ができる(他部署・他機関、車の手配等)	2			
自助具・補装具等の作製	自助具の作製	1 患者・疾患に合わせた自助具の作製ができる	2			
記録・報告	カンファレンス	1 患者の状態を適切な表現で報告できる	2			
		2 カンファレンスで決まった方向性に沿って訓練内容を修正できる	2			
	作業療法の記録、文書の作成 (施設内)	1 患者像を的確に捉え、リハビリテーション実施計画書が作成できる	2			
		2 ①家族指導要項書の作成・指導ができる ②他機関への書面(添書)の作成ができる	2 2			
医療事故	アクシデント対応	1 速やかに、正確に、主治医・担当部署への連絡ができる	2			
		2 急変に対し、応急処置及び連絡に協力ができる	2			
		3 速やかに事故報告(インシデント・アクシデント)ができる	2			
人材育成	研修、教育(1)(部門内)	1 部署内勉強会で文献抄読、伝達講習ができる	2			
		2 部署内勉強会の計画・開催ができる	2			
2等級職員の等級判定(○の個数)			個数	0	0	0
2等級職員の○取得率			50	0%	0%	0%